

令和7年度 射水市社会福祉協議会事業報告

射水市社会福祉協議会（以下「本協議会」）は、射水市と連携し令和3年3月に「いみず地域共生プラン（第2次射水市地域福祉計画・第3次射水市地域福祉活動計画）」を策定し、「みんながつながり支え合う 笑顔でいきいき暮らせるまち 射水」を基本理念に掲げ、地域共生社会の具現化を目指した3つの基本目標を定めた。本協議会はそれに基づき、多様な関係者と協働しながら、令和7年度は4つの重点取組と7つの活動方針により地域福祉活動を推進した。

同プランの基本目標1つ目の「ともに支え合う人づくり」においては、各地区社会福祉協議会への訪問や地域の会議への参加等を通じて、地域福祉活動の支援や担い手の育成・確保、福祉教育の推進に取り組んだ。基本目標2つ目の「安心して暮らせる地域づくり」においては、各種関係団体と平時からの連携強化を深めたとともに、能登半島地震時で見えてきた課題解決に取り組んだ。基本目標3つ目の「自分らしく生活できる仕組みづくり」では、地域において様々な相談を受ける機会の多い民生委員・児童委員やふくしサポーター、各相談支援機関等と連携を深めることで、複合的な課題を抱える世帯等に対して相談支援体制の充実を図った。

組織運営では、地域福祉を推進する中核的な団体としての事業運営や経営ビジョンの実現に向けて策定した「射水市社会福祉協議会発展・強化計画」により、各事業における取組の進捗状況を把握し適切に進行管理を行うとともに、職員間で今後の方向性等を共有することで、職員の資質向上や組織基盤の強化にも取り組んだ。

また、基金取崩等により収入不足を補填している経営状況を改善するため、経営改善会議を継続実施し、事業見直しと今後の方針について協議し、改善方策を策定した。

【重点取組】

1 住民主体の地域福祉活動の活性化支援

地域振興会や地区社会福祉協議会等と連携し、地域の実情に応じた活動支援や情報提供を行うとともに、見守り活動の充実、担い手の育成に取り組んだ結果、地域住民同士のつながりが広がり、見守り体制の強化など支え合いの基盤づくりが進んだ。

一方で、地域福祉推進の担い手については、民生委員・児童委員やボランティア、地区社協活動者などの高齢化や固定化が見られることから、継続的な新たな人材の確保と、誰もが参加しやすい仕組みづくりを、これまで以上に進める必要がある。

2 包括的な相談支援体制の機能強化

市が推進する重層的支援体制の構築を踏まえ、関係機関と連携した分野横断的な相談支援を実施するとともに、継続的な支援やケース対応の充実を図った結果、複合的な課題を抱える世帯に対して切れ目のない支援体制を強化することができ、対応の質の向上につながった。

今後は、専門性の向上や人材育成を継続し、対応力の底上げを図る必要がある。

3 福祉教育の推進と実践

ふくし出前講座や体験学習等を通じて、子どもから大人まで幅広い世代に対する福祉への理解促進を図った結果、参加者の福祉意識の向上や地域活動への関心の高まりが見られ、支え合いの意識の醸成につながった。

今後は、ニーズに応じた内容の充実と継続して学べる機会を増やし、地域での助け合いや支え合いの大切さを学び、思いやりの心を育てる取り組みを進めていく必要がある。

4 多機関協働の強化

多様化する地域課題に対応するため、市全体・圏域・地域の各エリアにおいて、各種関係機関や地域団体との連携を図り、福祉課題の把握と解決に向けたネットワークづくりに取り組んだ。

特に、災害時に備えた地域の共助体制の強化に重点を置き、災害ボランティアセンターの役割の再確認や災害協定の整理、関係機関との意見交換を行った。また、地域共助防災会議を開催し、想定される課題の共有と各団体の役割・支援内容の整理を進めた。

これらの取組により、共助のあり方に関する認識共有や地域団体間の連携の前進が見られた一方、実効性の高い具体的な体制の構築に向けて、今後も継続した協議と実践的な取組を進めていく必要がある。

【事業報告】

1 地域福祉活動の推進

(1) 地区社会福祉協議会の活動支援

地域に根ざした福祉活動を展開している地区社会福祉協議会の活動が充実・発展するよう支援を行うとともに、本協議会との連携強化を図った。

- ア 地区社会福祉協議会支援事業の実施
- イ 地区社会福祉協議会活動推進事業の実施
- ウ 地区社会福祉協議会運営体制支援事業の実施
- エ 地区社会福祉協議会地域活性化支援事業の実施

実施地区社協 26地区（放生津、新湊、庄西、作道、片口、堀岡、海老江、七美、本江、塚原、三ヶ、戸破、橋下条、金山、大江、黒河、池多、太閤山、中太閤山、南太閤山、浅井、櫛田、二口、大門、大島、下）

(2) ケアネット活動の推進

地域のニーズを把握し、その解決に取り組む活動を通じて住民参加による福祉コミュニティづくりを推進した。また、医療、保健、福祉等、生活を支援する関係者ともネットワークを構築し、誰もが安心して生活できる地域づくりを進めた。

- ア 地区社会福祉協議会での相談、支援、活動実施状況の確認
- イ ケアネット活動の取組状況

年度	チーム員数	利用者数	活動延べ回数
R7	412名	185名	45,453回
R6	446名	209名	51,970回

- (3) 民生委員・児童委員活動との連携及び活動支援
 民生委員・児童委員活動の推進と活動の強化を図るため、射水市民生委員児童委員協議会と協働して福祉サービス等に関する情報の提供を行い相互の連携を図った。

- (4) 子育て支援ネットワークの充実
 子どもの健全育成のため、地域ぐるみで子育て環境の向上を図った。

ファミリーサポートセンター事業の実施

ア 地区別活動件数 (単位：件)

年度	新湊	小杉	大門	大島	下村	計
R7	267	559	279	250	115	1,470
R6	32	458	510	251	41	1,292

イ 会員人数 (単位：名)

年度	協力会員	両方会員	依頼会員	計
R7	295	28	522	845
R6	294	26	529	849

ウ サブリーダー会議及びサブリーダー研修の開催

実施日	場所	内容
5月20日(火)	救急薬品市民交流プラザ 3階2A	委嘱状交付・活動状況報告・年間行事計画について等
9月16日(火)	救急薬品市民交流プラザ 3階2A	活動状況報告・活動内容について・補償保険制度について・サブリーダー視察研修について・行事打合せ等
10月21日(火)	立山町防災児童館複合施設アカリエ	施設見学・情報交換等
1月27日(火)	救急薬品市民交流プラザ 3階2A	活動状況報告・行事打合せ・今年度の振り返り・次年度事業計画案協議等

エ 実施事業

実施日	事業名	場所	内容	参加人数
7月8日(火)	救命講習会	救急薬品市民交流プラザふれあいホール	子ども救命救急講習会 講師：日赤富山県支部 林 亜伊子氏	13名(受講者) 6名(託児) 7名(サブリーダー)
7月10日(木)	救命講習会	救急薬品市民交流プラザふれあいホール	子ども救命救急講習会 講師：日赤富山県支部 小田島 芳子氏	13名(受講者) 1名(託児) 5名(サブリーダー)
7月29日(火)	キャラバン	救急薬品市民交流プラザ和室1	PR活動	10名(親子5組)
8月23日(月)	ファミサポ交流会	救急薬品市民交流プラザふれあいホール	ピエロのパットくんによる パフォーマンスショーと バルーンアート 講師：パフォーマー HARUKI氏	114名(親子36組) 8名(協力会員) 10名(サブリーダー)
8月30日(土)	キャラバン (商工まつり)	県民公園太閤山ランド	PR活動	

9月3日(水)	キャラバン	射水市子育て支援センター	PR活動	
9月26日(金)	ファミサポ交流会	救急薬品市民交流プラザふれあいホール	リズム遊び 講師：増本 衣規氏	24名(親子12組) 1名(協力会員) 8名(サブリーダー)
10月1日(水)	会員研修会	富山第一自動車学校	安全運転講習会 講師：学校職員	3名
11月20日(木)	資質向上研修	救急薬品市民交流プラザふれあいホール1階研修会	発達障がいについて知ろう 講師：一般社団法人Ponteとやま代表理事 水野 カオル氏	16名 11名(協力会員) 5名(サブリーダー)
11月29日(土)	射水市社会福祉協議会 設立20周年記念イベント	救急薬品市民交流プラザふれあいホール	PR活動	
2月21日(土)	ファミサポ交流会	救急薬品市民交流プラザふれあいホール	親子コンサート&ファミサポカフェ 講師：とやまミュージックキャラバン	75名(親子27組) 4名(協力会員) 7名(サブリーダー)
3月18日(火)	キャラバン	射水市子育て支援センター	PR活動	

オ 子育て支援センター会議への出席

実施日	場所	内容
4月22日(火)	射水市役所 会議室303	顔合わせ・年間計画(案)・近況報告、情報交換 研修「乳幼児栄養相談より」 講師：子育て支援課 川渕未緒管理栄養士
6月24日(火)	射水市子育て支援センター	活動報告(4月～6月)・事例検討・保育のポケット・その他
9月24日(水)	ふらっと 射水市子育て支援センター	ふらっと視察・活動報告(7月～9月)・事例検討・その他
11月25日(火)	射水市子育て支援センター	活動報告(10月、11月)・事例検討・保育のポケット・その他
2月24日(火)	射水市子育て支援センター	活動報告(12月～3月)・来年度について・研修会(視察等)について・保育のポケット・その他

(5) 地域団体が主催する活動への参加

福祉課題の把握や地域団体との有機的なネットワークの構築を目的に地域団体関係者と連携を図った。

①地区社会福祉協議会関係（総会、定例会、研修会、行事等）	147件
②地域支え合いネットワーク事業関係（各地区定例会、行事等）	216件
③ボランティア関係（市ボランティア連絡協議会役員会、福祉教育等）	29件
④民生委員児童委員関係（単位民児協、地区民生委員定例会等）	14件

※その他、地域支え合いネットワーク事業（第1層及び第2層生活支援コーディネーター圏域）活動（定例会、行事等）にも参画

（6） 研修会講師の派遣

地域住民からの要望に応じて、福祉に関する講座を開催した。

地区社協、単位民児協、自治会・町内会、教育機関、ふれあいサロン等	23件
----------------------------------	-----

2 担い手の育成・確保

（1） 福祉人材発掘・養成

地域福祉の担い手となる人材の育成・確保を通じて、地域の中で住民同士の支え合い活動が自然な形で展開される環境づくりを図った。

点訳・音訳・手話の奉仕員養成講座の受講者数（単位：名）

年度	点訳 (入門)	点訳 (基礎)	音訳 (入門)	音訳 (基礎)	手話 (入門)	手話 (基礎)	手話 (フォローアップ)
R7	3	-	-	34	17	-	11
R6	-	19	4	33	-	4	9

R7の実施回数：点訳入門8回、音訳基礎15回、手話入門24回、手話フォローアップ12回

（2） ボランティア活動の推進

地域福祉に対する理解と認識を高めるため、より一層の啓発を図り、また、ボランティア活動の育成強化を積極的に推進するとともに、人材の発掘、養成を図った。

ボランティアセンター登録状況

年度	個人	団体	主な活動先
R7	13名	135団体（4,802名）	福祉施設、学校、地域など
R6	5名	125団体（4,805名）	福祉施設、学校、地域など

ア 傾聴講座の実施

期 日	第1回：令和8年1月22日（木） 第2回：令和8年1月29日（木） 第3回：令和8年2月5日（木）、令和8年2月12日（木）
場 所	救急薬品市民交流プラザ1階研修室（第1回、第2回） 社会福祉法人小杉福社会大江苑デイサービスセンター（第3回） 社会福祉法人小杉福社会太閤の杜デイサービスセンター（第3回）
参加者	第1回：16名 第2回：17名 第3回：16名 延べ49名
内 容	第1回：講義・実技① 第2回：実技②・ワーク 第3回：傾聴実践・振り返り
講 義	「傾聴でひらく心のコミュニケーション」
講 師	富山国際大学 子ども育成学部 教授 相山 馨 氏

イ はじめてのSNS入門講座の実施

期 日 令和8年2月21日（土）
場 所 救急薬品市民交流プラザ3階会議室2AB
参加者 11名
内 容 市内で活動するボランティアや市民活動団体、NPO法人を対象に写真や動画撮影、投稿のポイントについて講義および実践を行った。投稿体験を通じて、活動の魅力・見える化や情報発信の向上を図った。
講 師 一般社団法人 ガチョック

ウ 射水市ボランティア・市民活動交流会

期 日 令和8年1月20日（火）
場 所 救急薬品市民交流プラザ1階ふれあいホール
参加者 51名
内 容 活動報告 報告者：個人ボランティア 草野 潤子 氏
団体ボランティア しんみなとコスモス
代表 林 智 氏
グループワーク ボランティアの希望の木を作成
日頃の活動の思いや課題を共有するとともに、交流や情報交換及び今後の活動につなげることを目的に開催。

エ ボランティア推進校連絡会

期 日 令和7年8月1日（金）
場 所 救急薬品市民交流プラザ3階会議室1AB
参加者 12名
講 義 「学校における福祉教育の推進について」
グループワーク 「魅力あるプログラムとは」
講 師 富山福祉短期大学 社会福祉学科 教授 鷹西 恒 氏

オ 児童・生徒へのボランティア活動の普及

- ① 次世代のボランティア活動定着を目的とした学校のボランティア活動への助成
・小学校14校 ・中学校6校 ・高校3校 ・短大1校
- ② ボランティア活動に関する助言
- ③ ボランティア推進校の活動をホームページに掲示

カ 地域指定による福祉教育の推進

地域との連携を図りながら、ボランティア活動・体験学習に関する事業の実施を支援（片口地区）

キ ボランティアセンターの運営と機能強化

- ① 広報啓発の普及促進
- ② 社会貢献活動の支援
- ③ ボランティア情報の収集と提供
- ④ ボランティア保険の加入推進

年度	加入者数	うち助成人数
R7	3,371名	743名
R6	4,153名	1,225名

ク ボランティア相談件数

年度	件数	主な相談内容
R7	292件	ボランティア活動情報に関するもの ボランティア講座・研修に関するもの ボランティア保険に関するもの
R6	350件	

3 災害時の支援体制整備

(1) 災害時の支援体制の整備

ア 実態把握調査の実施

地区社会福祉協議会や各種団体等と連携し、日頃からの見守り活動や要支援者への災害支援時に支え合える体制づくりの推進を図るため、実態把握調査を行った。

いのちのバトンの実績

年度	配置数	登録者の出動件数	登録者の活用件数
R7	2,265名	81件	68件
R6	2,333名	82件	55件

イ 災害ボランティアセンター設置訓練の実施

期 日 令和7年9月28日（日）

場 所 庄西コミュニティセンター 2階和室

参加者 職員8名

内 容 射水市総合防災訓練において、災害ボランティアセンター設置訓練を実施した。災害ボランティアセンターの役割や機能について、スライドによる説明及びパネル展示を行い、参加者の理解促進を図った。
その他には、災害協定団体を対象とした、情報伝達訓練を実施。

ウ 射水市災害ボランティア連絡会の開催

期 日 令和7年9月12日（金）

場 所 救急薬品市民交流プラザ1階研修会

対象者 射水青年会議所、射水市、新湊ライオンズクラブ、小杉ライオンズクラブ、新湊ロータリークラブ、射水ロータリークラブ

参加者 17名

内 容 災害ボランティアセンターの役割の再認識を図るとともに、災害協定の内容について整理を行い、今後の連携強化に向けた意見交換を行った。

エ 射水地域共助防災会議

期 日 令和7年10月27日（月）

場 所 救急薬品市民交流プラザふれあいホール

参加者 69名

内 容 災害時に想定される課題について協議し、各団体が担う役割や実施可能な支援内容について整理を行った。

共助のあり方や具体的な取り組みについて意見交換を行い、関係団体間の連携強化を図るとともに、今後の体制づくりにつながる機会となった。

(2) その他の取組

市との意見交換会 テーマ：「災害支援と地域福祉の連携強化」

期 日 令和7年12月17日（水）

場 所 射水市役所3階301会議室

参加者 13名

内 容 能登半島地震を経ての振り返りを行い、市と本協議会と関係団体とで
平時から協力できる関係構築の提案及び市の防災対策に関する情報交換を
行った。

4 多機関との協働体制の仕組づくり

(1) 専門多職種ネットワーク促進事業

福祉ニーズの多様化・複雑化に対応するため、市内で相談援助に就く専門職を対象に、事例検討を通じて市内全体の相談援助力の向上と相互連携・協働の強化を図り、包括的支援体制を目指すことを目的に研修会を開催した。

第1回勉強会

期 日 令和7年7月31日（木）

場 所 救急薬品市民交流プラザ1階ふれあいホール

内 容 顔の見える関係づくり研修会と題し、ワールドカフェを通じた事例
検討を行うことで、潜在的な相談者の発掘や伴走型支援の重要性と多
機関が連携して対応するためのネットワーク体制構築の大切さを学んだ。

講 師 社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター

医療・福祉相談室 室長 田中 典仁 氏

参加者 33名（市内福祉・医療関係事業所で相談援助に関わる職員）

第2回勉強会

期 日 令和8年2月20日（金）

場 所 救急薬品市民交流プラザ1階ふれあいホール

内 容 レジリエンス講座として、講義と個人・グループワークを通じて、
ストレスや困難にしなやかに対応する力について理解を深めた。
自身の経験を振り返りながら参加者同士の共有を通じて、多職種の
視点や考え方に触れる機会となった。

講 師 日本レジリエンスエデュケーション協会 米村 美樹子 氏

参加者 26名（市内福祉・医療関係事業所で相談援助に関わる職員）

(2) 地域公益活動の推進

地域における公益的な取り組みの推進を図るため、市内社会福祉法人が連携を
深め、福祉ニーズの把握、福祉課題の共有及び解決方法等について検討を進めた。

ア 研修会の開催

期 日 令和8年3月9日（月）

場 所 救急薬品市民交流プラザ3階会議室2A

参加者 8名

内 容 第1部 講義 福祉人材確保の現状と課題をめぐって

講師 特定非営利活動法人 福祉・保育まなびの理事長
富山短期大学名誉教授 宮田 伸朗 氏

第2部 意見交換

イ 射水市内社会福祉法人の巡回訪問

市内の社会福祉法人を訪問し、人材不足や社会福祉法人の地域貢献等について意見交換を行った。

(3) 商福連携の推進

商福連携の取り組みとして、年間を通じて商工会および商工会議所の会員に向けて、ひきこもりサポーター養成研修やファミリーサポートセンター協力会員募集など、福祉人材育成に関する情報発信を行った。

また、商工会と商業・福祉の連携について意見交換を行い、双方の課題やニーズについて情報交換を行った。

ア フードドライブの協力

期 日 令和7年5月10日（土）～5月11日（日）

場 所 アルビス大島店

内 容 フードドライブにおける受付等の運営協力を行うとともに、集まった食材を市内のこども食堂等へ配布した。

イ ふるさと商工まつりin射水でのモノドライブ実施

射水市商工会が主催する「商工まつり」に参加し、モノドライブとあわせて、ボランティアセンターの広報・啓発活動を行った。また、工作コーナーの実施を通して来場者にファミリーサポートセンターの周知や理解促進も図った。

期 日 令和7年8月30日（土）

場 所 県民公園太閤山ランド

内 容 モノドライブの受付を実施し、寄附された物品をひとり親家庭へ配布した

ウ IMIZU CROSS～つなぐ射水の未来～での出展

期 日 令和7年11月8日（土）

場 所 旧中伏木小学校

内 容 地域福祉活動全般、赤い羽根共同募金、ボランティアに関するPRや介護技術体験を通し、来場者に福祉を身近に感じていただく啓発活動を行った。

(4) 他団体が主催する活動への参加

福祉課題の把握やチームアプローチの推進として、相談員の資質向上、孤立化防止と日頃からの社会資源同士のネットワークの形成を目指し、定例会や事例検討会へ出席した。

①高齢者福祉分野（包括会議、社会福祉士部会）	38件
②障がい者福祉分野（相談支援部会、こども部会）	14件
③その他	32件

5 総合相談支援体制の機能強化

「ふくし総合相談センターすてっぷ」を設置し、住民の日常生活から生じる心配ごとや悩みごとに関する相談体制の充実・強化を図った。

(1) 生活困窮者自立支援事業

ア 自立相談支援事業

経済的困窮者や複合的な課題を持つ世帯の相談に応じ、一人ひとりの状況に合わせた支援を実施した。

① 支援実績 (単位：件)

年度	延べ 支援回数	支援方法別内訳				
		電話	訪問・同行	面談	他機関への 電話照会・協議	その他
R7	1,848	673	216	175	469	315
R6	1,350	509	162	156	244	279

② 新規相談件数 ③ 法に基づく事業等利用実績 (単位：件)

年度	新規 相談件数	主な支援内容				
		支援調整会議	支援プラン 作成件数	住居確保給付 金申請件数	生活保護受給者等 就労自立促進事業	緊急食糧支援
R7	19	12	8	0	2	11
R6	17	12	2	0	0	6

④ 新規相談内容及び件数（重複有り）

収入・生活費(12件)、ひきこもり・不登校(11件)、仕事探し・就職(10件)

家族との関係(6件)、病気や健康、障害のこと(5件)、住まい関連(4件)

税金や公共料金の支払いについて(3件)、債務について(2件)、食べるものがない(2件)

子育て(1件)、DV・虐待(1件)、その他(1件)

介護のこと(0件)、仕事上の不安やトラブル(0件)、地域との関係性(0件)

イ 家計改善支援事業

様々な生活課題を抱えて収入と支出のバランスが取れていない世帯へ、家計状況と一緒に確認・整理し家計改善につながる支援を実施した。

弁護士、年金事務所、病院、ハローワーク、市役所、民間業者など関係機関との面談に同行したり、必要な手続きのサポートを行ったりした。関係機関と連携を図り生活全体の把握に努めた。

コロナ特例貸付のフォローアップ支援から、家計改善相談に繋がるケースがあった一方で、相談のみに留まり実際の家計改善支援まで至らないケースが多かった。

① 延べ相談支援件数 461件

② 生活困窮者家計相談者数 20名

③ 家計再生プラン数 2件

ウ 就労準備支援事業

直ちに就労が難しい人を対象に一般就労へ向けての準備支援体制の整備を行った。就労体験を受け入れてもらう協力事業所の新規開拓に向け、商業分野、地域の関係者と意見交換を行った。

就労準備支援プラン実施中に、協力事業所での就労体験を5日間行うことができた。数年ぶりに自宅から出て働く経験を行うことができ、次のステップへつながった。

- ① 延べ相談支援件数 230件
- ② 生活困窮者就労準備支援相談者数 8名
- ③ 就労準備支援プラン数 3件
- ④ 就労体験実施数 1件

(2) ひきこもり支援事業

ア 相談件数実績 延べ相談件数 769 件 (R6 583件)

相談者別内訳						
年度	本人	家族	隣人知人、地域	専門機関	行政	その他
R7	286	255	14	149	32	33
R6	220	250	3	82	21	7
受付方法別内訳						
年度	電話	訪問	来所	電子メール	その他	
R7	216	150	104	127	172	
R6	149	104	90	177	63	

① 相談内容および延べ対応件数実績

年度	総数	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
R7	1,463	250	303	104	136	20	129	77	272	154	18
R6	1,059	168	230	112	14	44	127	91	105	118	50

①家族関係、②医療・健康、③就労、④経済的支援、⑤不登校、
⑥コミュニケーション、⑦居場所活動・家族会、⑧他機関との連携、
⑨状況確認、⑩その他

② 新規相談者の性別内訳

年度	件数	男	女	不明
R7	8	6	2	0
R6	9	6	3	0

③ 新規相談者の年代別内訳

年度	件数	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	不明
R7	8	0	3	1	2	2	0	0
R6	9	0	2	3	2	2	0	0

イ 専門相談会

精神保健福祉士、臨床心理士等の専門資格を持った相談員が対応する相談会を開催した。市内のひきこもり支援団体、障害福祉分野の支援者に加え、市内精神科病院の病院ソーシャルワーカーにも令和8年度から新たに相談員に加わっていただき、医療との連携を拡充した。

専門相談会開催実績

年度	開催回数	相談件数	参加者数	本人	家族	事業所	その他
R7	12	26	63	2	61	0	0
R6	12	25	37	1	35	1	0

ウ 出張相談会

移動手段がなく相談に来られない方のために地域において相談できる場所を設け、相談会を開催した。

	実施日	場所	相談件数
第1回	9月20日（土）	Sondeいい家はあとぴあ21主催の居場所に出張	相談 0件
第2回	11月7日（金）	新湊交流会館 出張すてっぷカフェと合同開催 市の出前講座（モルック）を実施	相談 2件3名 (カフェ参加者) 当事者3名 家族1名
第3回	1月21日（水）	中太閤山コミュニティセンター 「ふれ愛カフェ」に出張	相談 4件9名

エ 居場所支援（すてっぷカフェ）

ひきこもり等生きづらさを抱える方やその家族が集まって自由に過ごす居場所として開催した。当事者と家族の居場所をそれぞれ開催し、同じ立場の人同士が交流できる場をつくった。

① すてっぷカフェ開催実績

年度	開催回数	参加者数	本人	家族	その他	サポーター
R7	12	76	51	19	6	43
R6	12	87	68	16	3	37

② すてっぷカフェ家族会開催実績

年度	開催回数	参加者数	本人	家族	その他	サポーター
R7	12	37	2	35	0	54
R6	12	47	5	42	0	39

オ 射水市ひきこもりサポーター養成研修（1日間）

ひきこもりに関する正しい理解、本人や家族へのかかわり方などを学び、地域により多くの理解者・支援者を育成することを目的とした研修会を開催した。

修了者 28名（うちサポーター新規登録者13名）

第1回研修会

期 日 令和7年9月4日（木）

場 所 救急薬品市民交流プラザ1階ふれあいホール

内 容 説明「ひきこもりサポーターの役割」

射水市社会福祉課職員

講義「当事者や家族とのコミュニケーション～また話したいなと思われる支援者になるために～」

講師 医療法人社団あずき会川田病院

公認心理師・臨床心理士 石黒 美幸 氏

講義「支援者・当事者の話を聞いて理解を深めよう」

講師 一般社団法人いまここ親の会

ひきこもりソーシャルブリッジプロダクション

CEO 林昌則 氏

講義「ひきこもりの理解」

講師 グリーンヒルズ若草病院 院長 片町 隆夫 氏

説明「ひきこもりサポーターの心構えや自分たちにできること」

本協議会職員

カ 射水市ひきこもりサポーター勉強会（3回開催）

ひきこもりサポーター登録者に向けて、活動について改めて視野を広げ、地域の社会資源の発見や発掘、そして繋ぎ役としての役割について学ぶことを目的に開催した。

第1回勉強会

期 日 令和7年10月22日（水）

場 所 救急薬品市民交流プラザ3階会議室1AB

受講者 28名

内 容 講義「ひきこもり等で困っている当事者・家族を支える関わり方」

講師 医療法人 あずさ会 川田病院 石黒 美幸 氏

第2回勉強会

期 日 令和7年12月10日（水）

場 所 救急薬品市民交流プラザ3階会議室1AB

受講者 24名

内 容 講義「社会資源について」

講師 一般社団法人いまここ親の会

ひきこもりソーシャルプロダクション CEO 林 昌則 氏

第3回勉強会

期 日 令和8年2月18日（水）

場 所 救急薬品市民交流プラザ別館

受講者 22名

内 容 カフェ・家族会の紹介 サポーター経験の共有

グループワーク

（3）日常生活自立支援事業

自分一人で判断することが難しい方が地域で安心して生活を送れるよう、福祉サービスの利用援助を中心に、日常的な金銭管理や書類の預かり等の支援を行った。

加えて、成年後見制度の利用が必要とされる契約者について、適切に制度移行できるように支援した。

ア 相談件数 (単位：件)

年度	問合せ件数	初回相談件数	相談援助件数	合計
R7	3	14	848	865
R6	2	29	841	872

イ 契約締結件数 (単位：件)

年度	前年度末利用件数	新規契約者件数	契約終了者件数	年度末実利用件数
R7	9	0	1	8
R6	12	0	3	9

ウ 実利用者の内訳 (単位：名)

年度	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	その他
R7	4	3	1	0
R6	5	3	1	0

エ 生活支援員 (単位：名、回)

年度	登録者数	延べ支援回数
R7	16	132
R6	22	182

(4) 生活福祉資金貸付事業

他の貸付制度が利用できない低所得世帯や障害者世帯、高齢者世帯に対して資金の貸付と必要な相談支援を行うことにより世帯の自立と生活の安定を図った。

ア 新規相談件数 (実数) (単位：件)

年度	件数
R7	66
R6	44

イ 延べ相談件数 (単位：件)

年度	件数
R7	485
R6	259

ウ 生活福祉資金決定件数 (単位：件)

年度	件数
R7	0
R6	1

エ 令和6年能登半島地震による生活福祉資金特例貸付(災害特例)への対応
 受付期間 令和6年1月22日～令和7年9月30日
 令和7年度貸付決定 0件

オ 生活福祉資金特例貸付(コロナ特例)のフォローアップ支援

コロナ特例貸付の借受人の中で償還滞納者、償還困難者の生活状況の把握、償還相談や生活支援に取り組んだ。

相談専用のLINEアカウントを開設し、LINEでの状況確認や返済についての相談対応を実施。

延べ貸付件数 1,024件 貸付中件数 482件

R7延べ相談件数 647件

(5) 視察受入・講師発表等

本協議会及びふくし総合相談センターすてっぷの取組について、事例や研究成果の発表を行った。

月日	視察団体	視察内容
4月16日(水) 4月17日(木)	社会福祉法人 滑川市社会福祉協議会	・ふくし総合相談センターすてっぷ及びひきこもりサポート事業について ・すてっぷカフェの見学
11月18日(火)	社会福祉法人 入善町社会福祉協議会 令和7年度 県内地域福祉活動視察・交流研修会	①ひきこもり支援事業について ②地域活動紹介 庄西地区社会福祉協議会の紹介

(6) 社会資源開発への取組

既存のサービスの枠内では対応が難しいニーズに対して、柔軟に対応できるサービスや支援方法を生み出し、制度の狭間にある課題に対してアプローチするために、福祉分野に留まらず、学校や企業、NPO法人などと意見交換や事例検討を行った。

(7) 心配ごと相談事業

相談件数 (単位：件)

年度	小杉相談所	新湊相談所	合計
R7	13		13
R6	10	1	11

※令和6年9月末 新湊相談所閉所

(8) その他相談

相談件数 (単位：件)

年度	件数
R7	95
R6	73

6 高齢者福祉の推進・質の高い介護サービスの提供

(1) 総合的に高齢者を支える仕組づくり

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活が続けられるよう、介護、福祉、健康、医療などの様々な視点から関係機関と連携し、ワンチームで高齢者福祉の推進を図った。

ア 大島地域包括支援センター事業の実施

① 介護予防支援・介護予防ケアマネジメントの実施

区 分		介護予防支援	介護予防ケアマネジメント
利用者数 (延べ人数)	R7	568	289
	R6	433	305

② 総合相談事業

区 分		一般相談	ケアマネ相談
相談延べ件数	R7	1,834	398
	R6	2,015	210

③ 包括的・継続的ケアマネジメント事業

区 分		包括会議	事例検討会 (GENKI 式・看取り事例等)	個別ケア会議
実施件数	R7	6	2	1
	R6	3	3	1

④ 介護予防・日常生活支援総合事業

区 分		地域啓発活動	高齢者実態把握調査
実施件数	R7	10	122 人
	R6	6	117 人

イ 生活支援体制整備事業の実施（大島地区第2層生活支援コーディネーターの配置）
第3層生活支援コーディネーター定例会、第2層の連絡会議に出席し、地域における生活支援体制の整備に向け関係者と連携を図った。課題会議開催時には、地域住民ができることの実現のため、具体策や連携機関等について話し合った。

ウ 認知症総合事業の実施（認知症地域推進員の配置）

認知症に関する正しい知識と理解を普及するため、各種講座（認知症サポーター養成講座、認知症ミニ講座等）を実施するとともに、大島なごもつとを開催した。

（2）要介護者へのケアマネジメントの実施

介護を必要とする方が、自宅で適切に介護サービスを利用でき、その有する能力に応じた自立生活を営むことができるよう公正中立で適切な支援を行った。

居宅サービス計画の作成、サービス実施状況の把握と継続的な評価、介護保険施設の紹介

（単位：人）

		大島在宅介護支援センター	
区 分		居宅介護支援	介護予防支援
利用者	R7	1,371	69
(延人数)	R6	1,180	21

7 組織体制と経営基盤の強化

射水市の地域福祉を推進する中核団体として、誰もが安心して幸せに暮らすことのできる地域づくりを推進していくため、「発展・強化計画」の進行管理や課題分析を行い、組織及び財務等の基盤強化を図った。

（1）組織体制の強化

ア 役員等研修会の開催

日 時 令和8年2月13日（金）

場 所 救急薬品市民交流プラザ 1階ふれあいホール

参加者 理事監事評議員20名、職員18名

内 容 昨年度の県外役員視察研修報告（重層的支援体制整備事業に関すること）
社会福祉協議会の目的・役割と本協議会の取り組みについて

イ 事務の効率化や新規事業などの職員提案を募集し、5件の提案があった。

方針（導入検討2件、調査及び研究3件）を決め、各所属で検討を行った結果、5件が導入となった。

ウ 職員育成のため研修等への参加及び情報の共有

エ 職員相談窓口の設置

働きやすい職場環境づくりの一環として、職員がハラスメントや仕事の悩みなどを相談できる窓口を設置した。

オ 地域福祉DX推進事業の実施

射水市防災訓練時にLINEWORKSを活用し、職員の安否確認訓練を実施した。また、ふくし総合相談センターすてっぷの相談支援ツールの一つとして、生活福祉資金借受人やひきこもり相談（本人・家族）に対し、LINEWORKSを活用して、LINE相談を実施した。

(2) 経営基盤の強化

ア 実施する地域福祉活動に賛同いただけるよう、企業訪問し賛助会費の説明と依頼を実施した。本年度は本協議会設立20周年もあって、企業訪問に注力した結果、対前年比約400千円の増収となった。

賛助会費の納入件数

依頼方法	依頼した事業所数	納入した事業所数
郵送	275	197
訪問	41	27

イ 経営改善の取組

毎事業年度において損失が発生し、基金取崩等により収入不足を補填している経営状況を改善するため、経営改善会議を実施した。

第4回（令和7年4月24日）

全職員を対象として、社協の経営状況や経営改善方針の説明を行い、情報共有や意識改革を図った。

第5回（令和7年7月29日）

各担当から作成された事業見直しに関する調書を基に、自主財源分が大きい事業について、改善方策（案）を協議した。

第6回（令和7年9月2日）

前回会議における意見等を踏まえて、修正後の改善方策（案）を協議するとともに、理事会及び評議員会で報告する資料内容を協議した。

第7回（令和7年11月27日）

各担当から作成された事業見直しに関する調書を基に、自主財源分が小さい事業について改善方策（案）を協議し、全職員から意見を募集することにした。

第8回（令和8年2月6日）

職員アンケートの回答結果を基に、収入増加に関する方策（案）及び職員の給与面の見直し等について協議した。

第9回（令和8年3月5日）

全職員を対象として、これまでの会議における意見等を踏まえて、修正後の改善方策（案）を協議するとともに、職員の給与面の見直し等について協議した。

ウ 委託金・補助金等の見直し

令和8年度予算策定時に、市からの受託・補助事業に関して人件費の見直し等による受託金等の増額に努めたことで、本協議会の自主財源分の縮小を図った。

(3) 魅力ある広報活動

ア 広報紙「福祉いみず」の発行

年4回発行（5、8、11、2月）全ページフルカラー。

「地域共生社会 共に生きる」をテーマに、表紙には「射水市がどんなまちになったらよいか」を記載したボードを持つ住民や学生の写真を掲載し、地域への関心や福祉意識の醸成を図った。

広報紙は、市内全戸配布のほか賛助会員や関係機関等に配布した。

発行月	特集内容
5月	「ボランティア」ってなあに？ 射水市ボランティアセンターの活動
8月	共生社会をめざして 認知症とともに～当事者・家族・地域～
11月	聴覚障がい×スポーツ デフリンピックと共に考えよう！
2月	こんにちは！民生委員・児童委員です

イ ホームページによる情報発信

本協議会のホームページをリニューアルし、必要な情報にアクセスしやすい構成へ改善した。本協議会の概要や講座情報などについて随時掲載を行い、適切でタイムリーな情報発信に努めた。

ウ 新たな情報発信ツールの活用

本協議会のInstagramを開設し、行事・会議等の様子や地域福祉に関する情報を掲載し、幅広く事業の周知を図るとともに、地域福祉活動を身近に感じてもらうため、新たな情報発信ツールの活用に取り組んだ。

エ 広報委員会の開催

年1回の広報委員会を開催。（2月）

学識経験者、本協議会関係役職員、ボランティア等から広報委員を委嘱し、各分野の外部委員から意見をいただき広報活動に反映することで、広報機能の充実を図った。

オ 広報プロジェクトチーム会議の実施

職員による広報プロジェクトチーム会議を実施し、広報力強化を図るため内容や活動について協議した。

第1回（令和7年7月2日）

「テレビ広報いみず」の放送内容について

社協PRちらしの作成について

第2回（令和7年10月17日）

社協PRパンフレットの作成について

「福祉いみず」令和8年度の年間計画について

Instagramの活用について

第3回（令和7年12月11日）

「福祉いみず」令和8年度の誌面計画（案）について

「福祉いみず」令和9年度以降の発行計画について

各所属からの広報に関する意見についての確認

(4) その他の取組

ア 寄附状況

社会福祉事業	寄附金	団体	10件	596,789円
		個人	4件	114,000円
		小計	14件	710,789円
	寄附物品	団体	4件	紙おむつ、ミニ座布団、食料品
		個人	7件	紙おむつ、タオル、米、ハガキ
		小計	11件	
善意銀行事業	寄附金	団体	5件	40,000円
		その他	1件	31,730円
		小計	6件	71,730円
合計	寄附金		20件	782,519円
	寄附物品		11件	

イ 社会福祉大会の開催

社会福祉の推進にご尽力いただいた人を表彰するとともに基調講演を開催し、市民協働及び共生意識の促進を図った。

期 日 令和7年10月6日（月）

場 所 アイザック小杉文化ホールひびきホール

参加者 約500人

設立20周年記念特別表彰 （個人）3名

設立20周年記念特別感謝状 （団体）1団体

会長表彰 （個人）18名 （団体）1団体

会長感謝状 （団体）2団体

記念講演 「超高齢社会で生ききるための知恵」

講 師 一般医療法人ナラティブホーム 理事長 佐藤 伸彦 氏

ウ 設立20周年記念イベントの開催

設立20周年を記念し、地域の皆さまへの感謝の気持ちを伝えるとともに、本協議会の活動への理解と感謝を深めることを目的に実施した。

「感謝！つながる社協 つなげる社協～いいふくしの日～」

期 日 令和7年11月29日（土）

場 所 救急薬品市民交流プラザ ふれあいホール等

来場者数 約300人

内 容 ・子ども店長によるレクリエーション機材を使用した縁日
 ・災害避難所の体験として、実際の避難所に配置されるテントや簡易トイレ、段ボールベッドの体験と非常食の試食
 ・運転免許返納後の移動手段の一つになるセニアカーの試乗体験
 ・ボランティアグループによる手話と点訳の体験
 ・市内の飲食を取り扱う福祉事業所による出店（コーヒーやパン、クッキーなどのお菓子やお弁当などの販売）
 ・射水市社協設立20周年記念動画を作成し、イベント当日の会場来場者に社協の活動を周知した。動画は、ホームページやYouTubeチャンネルに掲載し、社協の活動PRのツールのひとつとして活用。

- エ 車いす、高齢者疑似体験セット、レクリエーション機材の貸出
各種福祉機材の利用普及、利用者及びその家族への相談助言を行った。

・利用数（台数）

区 分	R7	R6
車イス	101	106
高齢者疑似体験セット	25	38
レクリエーション機材	150	123

- オ 福祉バス運行事業

年度	利用回数	利用者数
R7	143 回	2,565 人
R6	139 回	2,330 人

- カ 社会福祉士養成課程における相談援助実習の受け入れを実施

- ・実習生 1 人（富山福祉短期大学 社会福祉学科）
- ・期 間 令和7年8月4日～9月11日（24日間）